

立川談志に愛され、
永六輔に託された

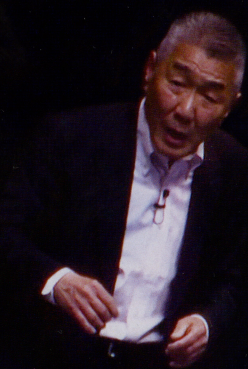


- 2020年 日本民間放送連盟賞 最優秀賞
- 第58回 キャラクター賞 優秀賞
- 第47回 放送文化基金賞 優秀賞
- 第29回 FNSTドキュメンタリー大賞 グランプリ

テレビで会えない芸人

V3

V4



出演—松元ヒロ

01:03:28:16

監督:四元良隆 牧祐樹 | プロデューサー:阿武野勝彦
 撮影:鈴木哉雄 | 編集:牧祐樹 | 音響効果:久保田吉根 | 音楽:吉俣良
 制作:前田俊広 山口修平 金子貴治 野元俊英 崎山雄二 荒田静彦 | クレジットアニメーション:加藤久仁生
 製作:鹿児島テレビ放送 | 配給:東風 | 2021年 | 81分 | 日本 | ドキュメンタリー | ©2021 鹿児島テレビ放送

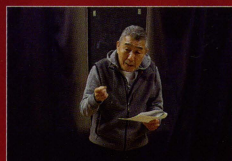
tv-aenai-geinin.jp

T2
NEXT

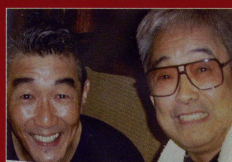
テレビで会えない芸人——その生き方と笑いの哲学から、

いまの世の中を覗いてみる。モノ言えぬ社会の素顔が浮かび上がる。

芸人、松元ヒロ。かつて社会風刺コント集団「ザ・ニューズペーパー」で数々の番組に出演し人気を博した。しかし90年代末、彼はテレビを棄て、主戦場を舞台に移す。政治や社会問題をネタに笑いで一言モノ申す。ライブ会場は連日満席、チケットは入手困難。痛快な風刺に、会場がどっと笑いで包まれる。しかしそれだけではない。松元ヒロの芸には、不思議なやさしさがある——



松元が20年以上語り続ける『憲法くん』は、日本国憲法を人間に見立てた演目。井上ひさしが大絶賛し、永六輔は「ヒロくん、9条を頼む」と言い遣した。その芸は、あの立川談志をしてこう言わしめた。「最近のテレビはサラリーマン芸人ばかり。本当に言いたいことを言わない。松元ヒロは本当の芸人」。けれど、いや、だからこそ、いまテレビで彼の姿を見ることはない…。



そんな今日のメディア状況に強い危機感を募らせていたのは、松元の故郷鹿児島県のローカルテレビ局。2019年の春から松元ヒロの芸とその舞台裏にカメラが張りついた。監督は鹿児島テレビの四元良隆と牧祐樹。プロデュースを手掛けたのは『ヤクザと憲法』『さよならテレビ』などの衝撃作を世に送り出してきた東海テレビの阿武野勝彦。なぜ松元ヒロはテレビから去ったのか？なぜテレビは松元ヒロを手放したのか？そして本作はその答えを見つけられたのか？



tv-aenai-geinin.jp

fb.com/tv.aenai.geinin

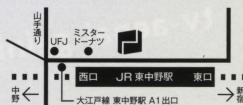
@tv_aenai_geinin

2022年
1月29日(土)よりロードショー
特別鑑賞券¥1300(税込)絶賛発売中!!



ポレポレ東中野

03 3371 0088 pole2.co.jp
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
都営大江戸線A1出口より徒歩1分



※事前購入可能／詳細は劇場HPにて